

1 学校教育目標

- やさしい子
- かしこい子
- たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎やる気いっぱい やさしさいっぱい やりとりいっぱい 中川東小 ○子供たちにとって大好きな学校、未来に亘って居場所となる学校 ○教師にとってやりがいをもって教育に邁進する学校 ○保護者や地域の方々にとって誇りに思う学校
○児童・生徒像	◎やさしく かしこく たくましい子 ○誰とでも仲良く分け隔てなく接する子 ○よく考え、すすんで学ぶ子 ○心身を鍛え、様々なことに挑戦する子
○教師像	◎子供たちを愛し、子供たちを伸ばし、教育への情熱を燃やす教師 ○常に子供の心の傍にいて、一人一人の子供のよさや可能性を最大限に伸ばす教師 ○「教師は授業が命」と授業づくりに熱心に取り組む教師 ○豊かな感性としなやかな対応力をもち、人間味にあふれた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]

○児童について

素直で優しい児童が多い。人とかかわる活動を楽しんで行うことができる。また、与えられた課題には一生懸命に取り組む姿が多く見られる。さらに、自ら課題を見つけ解決していく力を育てていきたい。区学力調査からは、新しい文章を読み解く力に弱さが見られた。基礎的基本的な学習内容の定着を図るとともに、活用力をつけていくことも課題である。学力向上の取り組みに引き続き力を入れて取り組んでいく。

○教師について

新規採用教員や教職経験の浅い教員（6年未満）が多く在籍している。若手を育てるベテラン教員と共に「チーム中川東」として、児童の視点を大切にした教育活動を推進している。休み時間は全員が外に出て児童と一緒に遊ぶ姿が見られ、常に児童と共にある教師集団である。「教師は授業が命」を合言葉に授業力向上に切磋琢磨する日常である。温かく高め合う学校の雰囲気にあふれ、伸びていく教師の姿をそこかしこに見ることができる。

○保護者・地域について

地域の温かさに包まれている学校である。「PTA」「開かれた学校づくり協議会」を中心とした保護者・地域の方々が積極的に教育活動に協力している。「あだち放課後子ども教室事業」の「きらりクラブ」の活動も10年を数えた。昨年度の創立40周年記念事業の大成功が、学校・保護者・地域の一体感をより一層強いものとしている。今後も保護者・地域の方々との連携を深め、共に「地域に育つ子供たち」を育てていく。

[前年度の成果と課題]

○教員の授業力向上を通して、児童の学力向上を図る。

校内研究や小中連携における研究授業・管理職による授業観察・教科指導専門員による訪問指導等を通して、常に授業をオープンにして授業研究に努めることで授業力向上が図られてきた。また、パワーアップタイム（朝学習）・花丸教室（放課後補習教室）・そだち指導等の個に応じた指導の充実、自主学習のモデル提示等家庭学習の徹底を図ることで学力向上につなげることができた。区学力調査の目標通過率は74.1%。新しい課題に立ち向かう意欲を鍛え、基礎基本の定着とともに「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に努める。読書環境を整え、本にすぐ手を伸ばす子を育てる。

○児童が安心して学べる教育環境を整える。

「一人一人を大切にする教育」に力を注いできた。創立40周年の昨年度は縦割り班活動を中心に据えた児童主体の活動が充実の一途であった。人とかかわる楽しさを存分に味わえた年となった。定期的にいじめ防止対策委員会を開き、いじめの早期発見・早期解決に努めた。いじめ解決率100%。今後はHyperQ-U検査を活用するなど、より安定した学年・学級経営を目指し、温かく高め合える集団づくりを展開していく。41周年の歩みを始める本校がいつまでも児童の居場所となるように教育活動を力強く推進する。創立40周年で整った教育環境をさらに充実させていく。

○保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

保護者からの日常の声や学校評価アンケートの結果を、よりよい学校づくりに生かしてきた。内容や呼びかけの工夫をすることで、数年来の課題であった授業公開・保護者会への参加率を伸ばすことができた。保護者や地域とのコミュニケーションが深まり、心の通った連携が築かれつつあることを手ごたえとして感じている。創立40周年における士気の高揚を今後に向けての起爆剤としたい。忙しく働いている家庭が多い中、「共に育てていく」という土壌を耕し、保護者・地域と心をつなげた学校経営を行う。園や他校（小中高）との連携を密にし、新たな道も模索していきたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン～教員の授業力向上を通して、児童の学力向上を図る～	○	○	○	○	○
2	児童が安心して学べる教育環境を整える。	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
児童の学力向上を図る。	2月実施の定着度確認テストで目標値を通過する対象児童80% 令和3年度区学力調査目標通過率80%	7月区学力調査 目標通過率 74.3% 昨年度比+0.2% 2月定着度確認テスト 目標通過率 77.1%	定着度確認テストにおいて達成基準に2.9%及ばず。引き続き基礎基本の定着を図るとともに、習熟度に応じた学力向上を図る。学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
改善	校内研究による 教員の授業 力向上	全教員・ 全児童 教科	年8回の 研究授 業 2月の研 究発表 会 (「開かれ た学校づ くり協議 会」へ)	学力向上に直結する教員の 授業力向上を図る。 ・「主体的・対話的で深い学 び」に向けた授業改善 ・話し合い・交流で自分の考え を深める授業展開 ・児童の発表の場の設定 ・書く力の育成(全国学力) 週1回100文字作文	児童アンケート 教員アンケート 全国学力調査 都・区学力調査	・R2全国学力調 査にて記述式 無答率0% ・区学力調査に て 目標通過率 80%以上	区学力調査 目標通過率 74.3% 昨年度比 +0.2% 全国学力調査 記述式無答率2% 成果大	新学習指導要領全面実 施を受け、年間7回の 研究授業・研究協議会 を実施。教員自己評価 アンケートでは100% の肯定的回答。学力調 査結果分析を念入りに 行い、授業改善に生か した。	◎
新規	読書環境の 充実	全教員・ 全児童 国語 図書	年3回の 読書月 間 通年	読書環境の充実を図り、本に すぐ手を伸ばす子を育てる。 ・図書室・学級文庫の蔵書 数増加 ・「読書通帳」の活用 ・国語関連図書の充実 ・近隣図書館との連携 ・「調べる学習コンクール」 への応募	読書量調査	・読書量調査で 目標を達成す る児童90%以上	コロナ禍でも年3回の 読書月間を実施 目標達成児童60% 「調べる学習コンク ール」への応募を多学年 に広げ、取組への手立 てを講じた。	図書バッグの携行・休 校期間の学校図書館開 設・調べる学習への意 欲づけ等、「本にすぐ手 を伸ばす子」が確実に 増えた。豊かな心の育 成・読解力向上につな げたい。	◎
新規	ICT機器の 活用	全学年	大型提 示装置 週3回 以上	ICT機器を活用した主体 的・対話的で深い学びの視点 からの授業改善を行う。	教員アンケート	・週1回以上児 童用タブレット を用いた授業を 実施した教員 80%以上	タブレットを用いた授 業実施率は高く、週1 回以上は100%達成。 児童用タブレットは常 に使われている状態。 「eライブラリ家庭学 習サービス」も1月よ り開始。	ICT機器に慣れるにと どまらず、授業での活 用場面を試行錯誤しな がら追究した今年度で あった。「GIGAスク ール構想」における1人 1台端末が待ち遠しい。	◎

継続	花丸教室 (放課後 補習教室)	全学年 目標値を 達成して いない児 童 正答率 75%未満 国語と算 数	毎週 火・木曜 日 放 課 後 30 分間	一人一人のつまずきに応じた個別指導を徹底し、苦手意識の早期解消を図り学習意欲を喚起する。 ・担任・副担任・講師等全教員による全校体制で実施 ・使用教材は、プリントとベーシックドリル ・学力ポートフォリオによる指導内容の精選	定着度確認テスト (1月実施) 教員自己評価 アンケート	・定着度確認テストで目標値を通過する対象児童 100% ・教員自己評価 肯定的回答 85%以上	定着度確認テスト 77.1% 教員自己評価 アンケート 肯定的な回答 個別指導 100% ポートフォリオ 92% 授業改善へ 77%	週 2 回 (火・木曜日) に全校体制で「花丸教室」を実施。個に応じたきめ細かな指導を行った。緊急事態宣言下で回数確保は不十分。ポートフォリオを活用し、より効果的な個別指導を行っていく。	△
改善	パワーアップタイム (朝学習)	全学年 国語と算 数	毎週 火・水曜 日 始 業 前 15 分間	反復練習により学習内容の基礎基本の定着を図る。 ・一日の学習のリズミカルなスタートの習慣化 ・5 分間で取り組める読解問題中心の教材にシフト。 ・主に担任と副担任で行う。	毎回のドリルの 自己採点・記録	・毎回のドリルの正答率 85%以上	毎回のミニテスト等 各学級 80~100% 全校共通で新しい教材を採用して 2 年目 読解中心で効果大	多くの文章に出会い 5 分間で問題を解いていく方法は、本校の児童の課題に即しており、今後も効果が期待できる。継続して取り組む。	△
改善	家庭学習の 徹底	全学年 全教科 主に国語 と算数 自主学習 (3 年生 以上)	毎日 キャン ペーン は 年 10 回	授業の充実・個に応じた指導・家庭学習の徹底は学力向上のトライアングル。より一層の家庭学習の徹底を図り、学力向上につなげる。 ・年 10 回の「家庭学習キャンペーン」の実施 保護者・担任によるメッセージ記入 ・提出率(家庭学習カード・宿題・自主学習)を各学級で確認 ・自主学習のモデルを参考に実施	宿題提出状況 調査 年 3 回 自主学習モデル 提示 (各教室)	・家庭学習カード 提出率 100% ・宿題提出率 100% ・自主学習提出 100% ・学校評価アンケート 肯定的回答 90%以上	宿題提出率 89% 自主学習提出率 82.5% 学校評価アンケート 肯定的回答 92%	家庭学習の定着は 100%には届かないものの、一定の成果が見られる。コロナ禍における休校期間中の家庭学習への働きかけが大きく影響していると考ええる。 自主学習の質と量は著しく伸びている。学級における「自学コンクール」の実施や常時展示も効果的である。	○

重点的な取組事項－２		児童が安心して学べる教育環境を整える。			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童にとって安全・安心な学校生活を確立する。		学校評価アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的回答 90%以上	各項目 94%以上の肯定的評価を達成 いじめ防止 95% 心を育てる 94% 施設設備 96%	コロナから児童の命と健康を守る。この危機管理がすべてであった。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
子供の心を育てる 教育活動の充実	「生活指導・特別活動に関する項目」：肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・「人とかかわる活動」の意図的・組織的展開 ・縦割り班活動の活性化・充実、新規活動の導入 ・気持ちのよい挨拶の徹底 ・人権尊重教育の徹底 ・全員合唱『いのちの歌』 	94%の肯定的評価 その内「よくできている」が67%と保護者から一番の高評価項目 縦割り班活動の柔軟的運用 「中東きらりんピック 2020」における高学年縦割り色別チームの編成 あいさつ運動を学級単位に変更 道德通信の発行・校内における研修	学校行事の重要性を鑑み、制限のある中ででき得る限りの工夫を凝らして実施した。そこにこそ教育活動の充実があると考える。	◎
いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さない校風醸成 ・いじめの起こらない学年・学級経営 ・HyperQ-U 検査の活用 ・早期発見・早期解決 ・いじめ相談箱の設置・活用 ・いじめ防止対策委員会の機能強化 	いじめ解決率 100% 保護者アンケート 「いじめ防止の取組」 肯定的評価 95% いじめ相談箱活用件数 0 件 いじめ防止対策委員会の開催 10 回 HyperQ-U 検査 2 回実施が効果的	いじめを許さない校風を醸成できた。いじめが起こらない・起こさない学年・学級経営が力を発揮した。教員の意識も研ぎ澄まされている。組織的対応も盤石。	◎
安全・安心な学校の整備	「学校施設の安全に関する項目」：肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の施設点検の徹底 ・創立 40 周年レガシー堅持 ・花があふれる環境づくり ・校庭外周壁画の維持 ・オリンピック・パラリンピックに関連した環境整備 	96%の肯定的評価を達成 図工室・図書室にパーテーション設置（コロナ感染拡大防止策） 体育館冷暖房完備 図書室床面修理 鉄棒等遊具修理	コロナ感染拡大防止の観点での安全・安心な学校整備に努めた。児童・来校者の三密回避のための動線確保等にも力を入れた。	○

重点的な取組事項－3		保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域との連携を図り、「創立 40 周年、その後」の教育活動を充実する。		学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的回答 90%以上	肯定的評価 保護者連携 96% 開かれた学校 96%	コロナ禍における密な情報発信は、連携における高い肯定的評価を得た。収束後に期待。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との共育体制の確立	学校公開参観率 85%以上 保護者会出席率 75%以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開・保護者会の内容の充実、参観率の向上 通信・HP等による情報発信の充実 行事後のアンケートによる双方向の交流 	学校公開 1 回・保護者会 1 回 個人面談 2 回 きらりんピック 2020・持久走記録会 制限された条件・人数の下で実施 保護者参観・参加はほぼ 100%近く 学校メールとHPによる情報発信はほぼ毎日継続	例年通りの教育活動の公開は不可能であったが、情報発信に最大限努めたことで、保護者との連携を深められた点では成果大であった。	○
子供の夢を育む周辺教育施設との連携強化	「幼保小中高との連携に関する項目」：肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> こども園・保育園との日常的交流の充実 小中連携の強化（学びのスタイルや自学の統一） 足立東高との連携の開拓（吹奏楽・陸上・挨拶等） 	園との交流は可能な範囲で実施 小中連携中止 足立東高との連携中止 ジョイントコンサート中止	ほぼ連携が行われなかったため、今年度は評価項目より外した。周辺教育施設とは電話・メール・Zoom等で、連絡をとるよう努めた。	△
「開かれた学校づくり協議会」を中心とした地域との連携強化	「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 創立 41 周年の歩みの共有 協議会活動内容の情報発信 地域人材の新規発掘及び連携強化 避難所開設・運営における協力体制の強化 	「開かれた学校づくり協議会を中心とした地域との連携」 肯定的回答 96% 昨年度比+7%	通常の活動はできずも、登下校の見守り・マスクケース作成・投擲板の改修等、コロナ禍ならではの活動が展開され、連携を深めた。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題①】・第5学年算数においては、通過率が55.6%であり、学習の定着状況に大きな課題がある。特に、量感や図形を捉えたり数の大きさを適切に比較したりすることに課題を抱える児童が多くいる。

【対策①】・授業では、足立スタンダードに基づいた問題解決型学習を進め、立式や計算方法について自分の考えをまとめるよう指導する。

・花丸教室（放課後補習教室）では、正答率の低い「図形」や「面積」の学習において、段階的な指導でつまづきを早急に解消させる。

・個別指導では、学力ポートフォリオを活用し、担任・副担任・講師等が個別に指導にあたる。

【課題②】・第4学年国語においては、通過率が67.4%であり、目標通過率を達成することができなかった。

【対策②】・授業では、説明的文章を読む際、段落の役割を理解して、叙述を根拠にして考えるよう指導する。さらに読んで書く学習を繰り返させる。

・個別指導では、短い文章を読み取ることを繰り返し指導する。漢字の習得にはスモールステップで取り組ませ、定着を促す。

イ 重点的な取組事項—1 児童の学力向上を図る。

【成果】・児童の表現力の向上 スピーチ力（ノー原稿）・調べてまとめる力（「図書館を使った調べる学習コンクール」への出品・入賞）

・家庭学習力の向上 自学ノートの充実・ICT 機器活用力の向上

【課題】・区学力調査 目標通過率74.3% 昨年度比+0.2% 基礎基本の定着の徹底

・新学習指導要領の理念「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善

ウ 重点的な取組事項—2 児童が安心して学べる教育環境を整える。

【成果】・HyperQ-U 検査（年2回）を活用した温かく高め合う学級経営の充実 支援を要する児童への配慮

【課題】・人とかかわる活動の復活 居場所のある集団づくり・縦割り班活動の一層の充実

エ 重点的な取組事項—3 保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

【成果】・情報発信の飛躍的な充実 学校メール・ホームページ・各種通信・電話等（休校中の保護者・地域との絆となる。）

【課題】・双方向のコミュニケーションの構築

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度は、子供たちの命と健康を守る、これに尽きる一年間でした。新型コロナウイルス感染防止のため、様々な防止策が講じられました。保護者の皆様には、毎朝の健康チェックと検温を通して、子供たちの健康管理に大いなるご協力をいただきました。自分と友達と家族を守るため、みんなで感染防止に努めてきた一年間です。教育活動も様々な制約の中で進めなくてはなりませんでしたが、子供たちが学校生活を生き生きと送っている様子や成長の足跡を、実際に目にして確かめていただくのが、学校の願いでもあります。今年度はそれがままなりませんでしたが、時も場も人数も制限して学校行事や保護者会に参加していただきました。保護者や地域の皆様にしてみれば、子供たちの姿や様子をもっと見たかった思いもおありでしょう。学校評価アンケートでは、しかし、感染防止をしながらできることを精一杯やってもらったというお声を多くいただきました。頭が下がります。

実際に会えない分、学校日より・学年日より・学級日よりや学校メール・ホームページ等による情報発信に例年以上に力を入れました。休校期間中は、担任から頻りに電話をかけさせていただきました。「人とのかわり」は本校の一番大切な経営方針の一つですが、今までとは違った形でのつながり方を模索した一年間でした。ある程度の成果は見られたのではないかと自負しています。学校メールへの登録率は100%になりました。

とは言え、学校教育は人と学ぶことで成り立ちます。まさに三密の世界です。一日も早くもとどおりの生活が戻ってくることを願ってやみません。情熱あふれる教員たちは、この一年間でためてきたエネルギーを、授業で学校行事で、何より子供たちとのかけがえのない日々で燃焼させたいと願っています。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、思ったような教育活動を展開できませんでした。しかし、そのような制限のある状況下でも、「今できることを全力で」のスローガンのもと、子供たちに大切であると思う教育活動を充実させてきました。コロナ禍であっても、子供たちの学びを止めない、それは私たちの決意でもありました。密を避けるために話し合い活動やペア・グループ活動は十分にできませんでした。教育活動全般において、この状況だからこそついてきた力もあると考えています。それは、スピーチ力であり、調べる力であり、家庭学習力や ICT 機器活用力等であったように思います。話し合うことはできなくとも、見合う・書き合う等様々な「～し合う力」は育めたのではないかと思います。

地域や保護者の皆様には、普段とは違う形で学校教育へのご支援をいただきました。子供たちの登下校の見守り・マスクケースや消毒液のプレゼント・投擲板の塗り替え等、子供たちに会わない形でも、子供たちを見守っていただいたのがよく伝わってまいりました。本校は地域の温かさに包まれた学校です。このような状況下でも温かく見守られたことに感謝しつつ、次年度の教育活動をより力強く推進していくことをお誓いします。